

友好祭ニュース

No.3
1957. 6. 13.

第六回世界青年学生平和友好祭日本実行委員会
東京都千代田区丸の内一ノ一
交通公社内 工三(23) 一六七九

地方の準備状況

北海道

全道労協、青婦協、道青年団体協議会、北海道学生連、道合唱団、社会党青年部、自民党青年部、国鉄若見沢青年部、日中道連青年部、道平和委、日ソ支部、民青、新札幌内校、全道生活派美術集団、道サークル協議会、道美術、全道美術会、道新人作家協会、札幌地区労青婦協、共産党地方委員会によって構成されている全道的な実行委員会、既に十五名の代表派遣の手配も完了し、北海道青年学生平和友好祭に向けての準備を進めている。北海道平和友好祭は歓迎会をかねて六月三十日に開かれる予定である。その内容が次の通りである。

- 1 代表の部門別討論集会
 - 2 映画会
 - 3 代表歓迎会
 - 4 写真展
 - 5 ソウエイエト資料展
 - 6 写真コンクール展示会
- また、モスクワでのフェスティバルは七月二十八日から二週間行われるが、これと呼応して七月末、札幌、旭川、釧路、函館の四ヶ所でサマーキャンパスが行われる。

青森

県教組、日鉄、全道、全食糧、全林野、青森銀行、県連青、農協青年部、民青、青文協などで行行委員会が構成され進められている。既に代表八名は手配完了している。県の祭典は六月下旬に行われる。

秋田

全林野秋田地本で代表派遣を決めていたが、秋田管林局の八木下君が決定している。

山形

酒田市、山形県教組中心に準備が進められている。たが三名の代表の手配は決定している。

宮城

労組組合としては県労評青婦協、宮青婦及び有力単産民間労連が中心に日中青年歓迎運動と結合してすすめている。農村では県連青が運動母体となっており、古川、仙南地方で統一的地区代表派遣の運動が進められた。学生ではゼミナール、サークル、寮連合等の広汎な動きがある。又、民青中心に平和こんだん会、農協連、歌こえ、合唱団、演劇サークル等が結集している。県友好祭には産別こんだん会、学科別ゼミナールを始め映画会、ダンスパーティー、合唱祭、若い女性のつどいなど多彩なものも盛り込まれている。代表派遣費はプール制とし六名が決定している。

岩手

県労連青年婦人部、県青協、岩教組、日鉄、全道連、民青、演劇、日ソ、うたこえ他で、実行委員会のもとに運動が進められている。派遣代表の最終的決定は五名である。県平和友好祭を目標に九月上旬までに地域友好祭のもり上りを口から方向が確認されている。

福島

日鉄、合唱連盟、青文協などから五名の代表が決定された。

茨城

県労連青婦部、県青協、茨大、平和委員会、県面部準備会、農政研究会、工浦市民合唱団、土浦平和こんだん会、金属東京電機分会、水戸市青年会、日鉄水戸地本青年部、鹿島郡青協、朝鮮青年同盟、国際貸定地方議連その他が実行委員会に結果している。五月、六月は県内各地で話し合いがリクレーションの小康会を通

じて運動を並び、県祭典は七月上旬に行う予定である。九名の代表は決定している。

埼玉

県労青年部、国鉄大宮工場、埼教組、大宮若い人の集い、全道埼玉地本、金属、電通、民青、埼玉大学、東武鉄道、日ソ、埼映連、県うたこえサークル協議会、社会党青年部、農林、富士写真、駒上野支部、川口青婦協が実行委員会に結集している。

県規模の祭典は七月二十八日から八月四日までの一週間モスクワでの祭典と呼応して、平和週同と銘うって、コーラス、ダンス、労・農・学・婦への各分科会等の内容で行われる。四名の派遣代表が決定しているが、財政はプール制としている。

群馬

モスクワの祭典に参加する群馬県の代表については早くから各青年団体の間で話題になっていた。五月七日の中央実行委員会、群馬県代表は四名と決められた。五月十九日の県実行委員会ではこの四名について次のように相談して各団体から代表候補を推薦してもらったことになった。

1 代表四名は全県の青年の力によってモスクワ祭典に送る。2 代表派遣の運動が多くの青年支援のもとに進められるためには、地域祭典と深く結びつけて進める。3 代表の資格については次のようにして送付することにした。A 代表は労協農村学生などの階級別を基本とし文化及び青年運動平和運動の活動家などを含めて送付する。B 過去の活動の実績を検討し特に青年組織の正式代表として決定されたものだけを送付する。C 地域的な配慮は当然として口ならないが、あくまでもAとBを基本としその上に立って考えることとした。(現実には運動が立滞している現状では、必ずしも平均的ではない)五月三十日の常任実行委では以上にもとずいて推薦された人種を審査した。代表候補を出した団体は群青協、高崎青婦協、白根群青連、民青同、日ソ親善コーラス協議会桐生サークル協などであった。

しかしこれらの団体のうち、中央代表と群青協日ソ親善が決定したために残った六団体となった。さらに群青連では代表派遣について慎重に討議した結果、今回は辞退して、地域祭典と県水際禁止運動に全面的にこりくむことになった。又、桐生サークル協でも、準備不十分のために自発的に辞退した。そこで残った四団体が群馬県代表として決った訳である。この中で日農代表はひょう害などのために非常に困難が出て来たこと報告されたが、全青年団体の協力によって応援することにして、代表を承諾した。六月二日の実行委では以上のことを承認した結果、代表四名を決定した。(群馬県友好祭ニュースより)

千葉

国税千葉支部、千葉合唱団、山本こ合唱団、平和委員会、青年団、国鉄千葉地本、学生などによる準備課程から三名の代表派遣を決めた。

栃木

県労青婦協、県連青、農協、宇大をはじめ十八団体によって実行委員会を構成し、運動を進めてきた。はじめ三名の代表を決めたが、うち二名の辞退により一名の代表派遣を確定している。

神奈川

横浜民衆合唱団、京浜民青、横浜日ソその他により実行委員会を構成、青年団、朝日新聞労組、横浜貸定協からの三名の派遣代表を確定している。

静岡

県青婦会議、県青協、静岡大文理、日ソ、うたこえ県準備会、日中日ソ国文回復県民会議、ソ研による実行委員会がある。代表は三名。

愛知 豊橋から一名派遣することには、豊橋のかなり初期から出ていたが、その後豊橋に実行委員会が結成され、東海プロシンの割当のうち五名をモスクワに送ることになった。

三重 県青協、地区等書部、平和委員会などにより実行委員会が作られ、国鉄など九名の代表希望のなかから四名が決定した。

長野 長野県評、諏訪地区日費、民青、社会党青年部などによる準備の過程で七名の代表が決定した。

石川 県書庫、県評など中心の準備活動のなかから八名の代表が決定している。

新潟 新潟県実行委員会ではモスクワ祭典にむけて県代表の決定、歓迎船誘致のための知事交渉など多岐にわたる中、モスクワ祭典に参加する新潟県代表については廿六日新聞会議を開催、各地各団体で送衛されりれた十六名について協議審議した結果、計十六名について決定し、二十八日第三回実行委員会に正式に確認された。決定された十名は晴れの日本代表団の一員として、来る七月十六日新潟県実行委員会の献身的努力によって入港し、また歓迎船アレクサンデル王子号やイスキー号、一路ナホトカに直航、七月廿八日から八月十一日まで全行程の青年学生を一瞥に会して、平和友好祭に参加する。(新潟友好祭ニュースより)

高山 県労協青婦部、県青年読書隊、青年商工会議所など二越、国鉄、高山大、うたごえ、ひまわり合唱団、自派青年部、社会党青年部、共産党、民青等二十三団体により実行委員会が作られている。代表は既に全員手続きを終っているが、この実行委員会を展覧させて準備的な青年団体連絡協議会をつくっていくことになり、動きが見られる。

福井 福井県評中心に実行委員会結成、福井、敦賀などから代表が送られる。

和歌山 高教組で代表を一名派遣する。

奈良 県評、県評青婦部、県青協、県学連、民主団体連絡協議会、合唱団など実行委員会に結集している。派遣代表は三名を決定した。

大阪 中国青年歓迎のため全書庫は具体的に不参加であるが、本派の青年学生団体によって実行委員会が作られている。十三名のモスクワ祭典参加が決定している。

滋賀 大津などでフルシヤワ祭典の映画会が行われている。代表派遣は一名。

兵庫 労竹青年、学生、婦人の女性参加のもとに、中国青年歓迎運動とフェスタバル準備を統一して進めている。各層別二回大会や兵庫県青年大会も開催。

京都 府青連が主となって準備をすすめている。

広島 市議会からも代表が参加

鳥取 鳥取青年婦人会が中心になっている。

岡山 県評、国鉄、民青等が実行委員会を結成している。

島根 実行委には社会党、共産党も参加している。平和友好祭の一環として大山サマーキャンパスを計画している。

山口 山口県青年のついでに事務局が主となって準備をすすめている。

徳島 徳島高教組でも一名代表派遣

高知 県教育研究所、民青、等で準備中

愛媛 県青協では五名代表派遣を目標にキャンペーンをすすめている。

大分 国鉄、教組、通商等を構成している大分青婦協で代表派遣の準備中。

鹿児島 鹿児島大教養学部で熱心に準備をすすめている。

愛知 名大で教授、学生四名が参加を望んでいる。詳細は不明だが準備は本派に行われている。

東京 東京のニュースでお知らせします。

以上はいくつかの地方を除いては五月二十日までの詳しい状況です。ニュースが遅れていることをお詫びします。

モスクワ祭典記

- 映画・平和と友情 (第4回フェスタバル) 天然色 9巻 2,000.-
- フルシヤワの青春 (第5回フェスタバル) 5巻 白黒 1,500.-
- 日本の青春 (日本の祭典記録) 4巻 1,200.-

劇映画・松竹大映東映東宝独立
その他記録映画あり。

東京都港区芝田村町4の22 青年文化協会映画部
TEL (43)4578

五百名代表団出そろう

五月二十五日に衆議院議員会館で開かれた第四回全国実行委員会の決定に従つて更に数名の枠返上に関するは数回の常任実行委員会での慎重な討議の結果五百名の構成は次のようになった。

北海道	一五
青森	八
岩手	五
宮城	六
秋田	一
山形	三
福島	五
茨城	九
栃木	二
群馬	四
埼玉	四
千葉	三
東京	四六
神奈川	一六
山梨	一
新潟	一〇
富山	九
石川	八
福井	二
長野	七
岐阜	三
静岡	三
愛知	五
三重	四
滋賀	一
京都	五
和歌山	一
大阪	一三
兵庫	五
奈良	三
鳥取	三
島根	三

岡山	三
広島	七
山口	一
徳島	一
香川	一
愛媛	五
高知	三
福岡	四
長崎	一
熊本	一
鹿児島	一
鹿儿島	一
代表団事務局	四一
文化芸術	一〇〇
中央	一二九

第六回世界青年学生平和友好祭日本代表団氏名

氏名 所 属

○北海道

時安政富	親交住宅建設社
松井桓幸	旭川文化協会
小川義男	学大自治会連合
北浦弘	斜里郡清里農協青年部
国忠了	北海道学芸大旭川分校学生自治会
菊田勝雄	国鉄労組西穂工場支部
加藤文夫	国鉄労組釧路工場役員
竹田進	三菱美唄炭鉱労組
赤松正美	富士製鉄室蘭製鉄所労組
吉田修身	北大文学部自治会
四日市励	社会党北海道支部連合会
芹田英治	新人作家協会
石橋薫	北野青年団

高橋由明 新人作家協会
穴田正信 朝日村青年団

○青 森

白崎哲朗 青森地区教員組
長谷部元彦 全通徒組北部支部
安部義雄 弘前大学生
佐藤良三 なし
後藤半四郎 黒石小学校教員
三上憲明 全通青森地区本部
加藤義治 国鉄教員
久保吉也 七戸町公民館

○岩 手

村井法一 日本社会党盛岡支部
千葉培夫 岩手大学生自治会
原正恭 盛岡演劇会
洞口伊章 釜石市販賣組合
石沢トミ 岩手大文部事務官

○千 葉

宮田国雄 東邦大学友会
松本忠 国鉄労組千葉地本
新田目建 法政大学社会学部

○石 川

梅村零子 刺田北陸新協
森庄三郎 石川県教員組合
炭谷喜一 同人会
広谷進 全日通労組
酒井三郎 石川県販賣労組
道越 映 石川県連合青年団
富野光伸 金沢大教養学部自治会
山田四郎 日本地理学会

○茨 城

宮本弘 茨城大教員組合
久保木和 本を讀む会
中川涉 茨城県高教組結城二高分会
根本茂子 日本歯科医師会
小笠原徹 茨城県歯科医師会
角田綾子 山ビッコラス
浦井四郎 電通労下館分会

佐々木正治 麻島郡青年団協議会
笹本善哉 教育学部自治会

○群 馬

栗崎幹雄 民主青年同盟
後藤昭男 県販労組
石原武雄 日農青年部
戸塚明 日本化薬岩鼻作業所

○山 形

西田桓雄 酒田市教育委員会事務局
岩本敬一郎 酒田ウオーカル・スタジオ
松浦猛将 山形大学友会

○新 潟

加藤禧一 新潟大高田分校学生自治会
中川良一 日農新潟県連
金子光治 電通労組三条電報電話局
池田伸昭 全通信労働組合
木村毅 緑の会下越協議会
笹川登志 国鉄労組新潟地本
酒井稲夫 国鉄新潟管理局
土田道子 長岡演劇協議会
椿利策 新潟県庁販賣組合
遠藤武也 新潟県教員組

○秋 田

八木下弘 秋田営林局

○宮 城

狩野ヨシコ 東北大北分校学友会
高橋永吾 書道芸術院
橋本亮 宮城県青年婦人会議
千葉佳男 国鉄労組仙台地本
大木俊夫 日本天文学会
谷郁夫 仙台商工連合会

○福 井

南本邦夫 食糧庁福井事務所
斉藤清治 国鉄南福井取

○福 島

国井庄八 二本松青年文化協会
今泉正頭 郡山市青年文化協会
渡辺哲吉 福島県合唱連盟

阿部 憲治 国鉄労組仙台北本

○富 山

吉野 文作 富山魚市株式会社

柚木 春雄 日農富山県支部連合会

経田 弥吉郎 日ソ親善協会

辻 幸政 日本新内社々長

森川 友明 国鉄労組

米沢 準幸 入膳町青年団

松井 章 富山大学自治会連合

若林 平心 北陸電力労働組合

山橋 保 日ソ富山支部

○東 京

渡辺 浩子 早大劇団自由舞台

金子 豊次 東武鉄道労組

若木 泰 水道労組

北島 裕子 日中友好協会

根岸 純 東京映画サークル協議会

村井 輝夫 ニッコール・クラス

恩田 耕一郎 港区議会

粟原 茂 文京区議会

横溝 久乃 団体給食研究グループ

野村 豊 大森西青年協議会

堀口 貞美 東京映愛連

鶴沢 泰夫 東大教養学部

栗山 正彦 東京勤労音楽協議会

横山 雄一 日中友好協会

武重 隆 法政大経済学部

安 和子 日本美術会

村井 秀美 慶大芸術研究団体連盟

蓮川 伸子 日中友好協会

橋本 克己 早大才二政経在学中

斉藤 喜一郎 台東商工業者懇談会

掛川 清一 日ソ親善協会

近藤 正二 北原文化クラス

唐沢 敬 明大アメリカソウエト研究部

阿久沢 実 東京勤労音楽協議会事務局

丸 一夫 東京国税局労組

斉藤 照夫 日ソ親善協会

井上 尚 東京大学消費生活協同組合駒場支部

山崎 義春 東京商工団体連合会

中里 迪弥 日朝協会

笠原 絹代 沖電線株式会社

清水 博 日本科学技術連盟

藤原 行正 杉並区議会

赤松 宏一 一橋大学院在学

坂場 栄蔵 日中友好協会

加藤 九祚 正史学研究会

高田 唐吉 東京労音事務局

加藤 清政 日本社会党

竹中 寛憲 東京商工団体連合会

伊藤 共治 劇団演出劇場

沢田 寛 大田区鶴の木青年会

家城 久子 日朝協会目黒支部

吉田 実 神奈川建築士会

伊藤 政顕 日ソ親善協会

石井 明天 法政大学々生

朝倉 摂子 新制作協会

新庄 修 社会党大田支部

○福 島

鈴木 喜雄 耶麻農民組合

○愛 知

柿沢 寛 名古屋大学理学部

越智 美則 日ソ親善協会愛知県連合会

須原 昭二 日本社会党愛知県連合会

田中 恭一 日本社会党中村支部

安藤 孝司 日本民主青年同盟

○神 奈 川

丹治 栄三 日本社会党神奈川県連青年部

長崎 真人 民主青年同盟京浜地区委員会

斉藤 正 日本社会党横須賀支部

木村 敬男 神奈川県青年団協議会

大沢 正 朝日新聞労組横浜分会

小原 秀郎 横須賀生活協同組合職員

○埼 玉

岡田 正一 東京鉄道管理局

高野 忠夫 県教職員組合本部

小島康男 国鉄大宮工場職員
松田一郎 大宮郵便局長

○長野

斉藤明二 長野県教職員組合執行委員
丸山光男 民主社会主義青年同盟
森山栄一 県職員労働組合執行委員
樽田信夫 日豊長野県連帯執行委員
江釣子道子 松本まほろ合唱団
羽吹義雄 日本社会党岡谷支部
水沢和一 日本農民組合長野県連合会

○愛媛

黒田伊佐男 愛媛県連青
黒田圭介 愛媛県連青
兵頭福男 愛媛県連青
浜田卯三郎 愛媛県連青
篠藤幸一 なし

○高知

竹村昭三 日本高教組
池田由賀 四国学生連合
川上宏 追手前高校

○鳥取

井田優 国鉄米子管理局後藤工場電気修理工
立木大吉 米子電報電話局社員
松田安弘 松田製着株式会社代表取締役

○和歌山

泉本山次 和歌山高教組

○岡山

上田伝明 日教組岡山ペンバルスクラス
平川洋児 児島市青年団協議会
高原正太郎 日本文化人会議

○広島

小林忠義 日本青年団協議会広島県青年連合会
村井正彦 広島県漁業協同組合連合会
吉田治平 全日本自由労働組合
若林茂昌 農 業
八谷泰央 広島県青年連合会
小田隆史 日本青年団協議会広島県青年連合会
服部正貴 日本基督教団

○岐阜

稲毛実 大垣青年友好会
枝条恒久 日ノ親善協会岐阜県支部
蓑早 下出製作所社員

○大阪

古角松夫 洋菓子協同組合
川端昇 高槻市青年団体協議会
高橋章 大阪大学医学部医務実地修練生
所川照江 大阪府学生自治会連合会
河村久子 日中友好協会
能見雅之 能美防災工業株式会社
森園孝 全泉州民主サークル統一協議会
園田実 関西夜学連

上田良男 国鉄吹田工場

三宅美智雄 平和を守る会

岸岡昇 平和を守る会

細川耀男 大阪青年団協議会

橋本喜代治 大阪教職員組合

○兵庫

河端清五郎 尼崎市職員組合
杉田全弘 神戸市外語大3年
橘武史 日ノ神戸支部
松末誠一 全港湾建設労組
村角強 別府化学労組役員

○鹿児島

保手文天 全鹿児島県鹿児島郵便局支部

○栃木

稲葉誠一 日本社会党栃木県連
田野井政夫 県青少年クラス協議会々々長

○徳島

竹原茂雄 徳島県高教組

○滋賀

長谷川洋 京都府立鴨沂高校3年

○香川

川松一利 香川県教職員組合

○山口

原田東海夫 山口大自治会

○京都

久保幸雄 日ノ京都府連

野々垣 享 天理教

松井広吉 京都市教職員組合

盛岡 登良夫 京都司法書士会、京都土地家屋調査士会

木村達夫 木村工業有限K社社員

○静岡

大場 茂司 袋井町議會議員

杉山 金夫 静岡県職員組合

大村 忠 日本社会党静岡支部

○奈良

村田 昭二 公務員技術吏員

小西 敏夫 天理大口シア科

矢川 敏雄 日本社会党奈良県連

○山梨

戸沢 康二 東京電力山梨支店社員

○島根

山内 宗重 浜田勤労者音楽協議会

下垣 秀典 島根県連合青年団

平田 一夫 島根県職員組合松江支部

○福岡

日比生 剛 西鉄労組

中山 孝顕 大牟田地方労働組合

中村 通敏 九州大学校友会

高 智彦 若松市役所職員

○三重

鈴木 一正 三重県賑組

森 国夫 三重県連青

渡田 博 尾鷲市教賑組

辻本 茂久生 国鉄労組

○日青協

吉田 正志 日青協

竹中 信男 豊岡市役所事務吏員

日高 赴 九州地区青年団協議会

坂本 光 群馬県青年団連合会

渋谷 耕治 山形県連合青年団

百瀬 道文 日本山岳会

石原 昭男 吳服商

佐藤 繁明 尾道青年連合

興田 隆弥 石川県連合青年団

高橋 正 徳島県青年連合会

大西 正三 和歌山県青年団協議会

近藤 誠司 愛知県青年団協議会

岡田 平 筑波郡青年団協議会

藤野 一枝 大阪府青年団協議会

水谷 勤 北海道青年団協議会

大西 末広 香川県連合青年会

穂坂 正人 日本青年団協議会

中村 昭一 大分県連合青年団

福森 夏樹 伊賀民主青年懇談会

辻 武二 富山県青年団協議会

高橋 俊郎 長岡市青年団協議会

増淵 徳寿 栃木県連合青年団

官本 寿男 広島県青年連合会

野中 一三 家畜業

井上 博司 熊本県青年団協議会

川村 一耕 日本社会党茨城支部

○被災者代表

永田 尚子 原爆被災者団体協議会

網岡 弘 広島原爆被災者団体青年協議会

末本 和子 同 石

清胤 徹昭 加計町被害者の会会長

○農村代表

阿部 昭吾 日本農民組合

岡 正義 日本社会党

大橋 良雄 日本農民組合

中原 嘉之吉 同 石

梅原 昭 同 石

佐瀬 一郎 同 石

降矢 健二 日本社会党

山中 高吉 日農本部青年部副部長

五十嵐 金蔵 日本農民組合

山口 巖 全国農民連盟書記

○諸団体

林 陽子 横山はるひハレ一団

安井 侑子 お茶の水女子大学々生

対馬武雄	青少年文化協会
北島武敏	国際ペンフレンド協会
決中雄三	青年文化協会リフレクション友の会
落合光	日本郵趣協会
中野由紀子	日本教育者エスぺラント同盟
本郷 暁	新制作協会
城戸房嗣	日本エスぺラント学会
長谷川 登	日本模型飛行機競技連盟
大原 嘉蔵	日本ロシヤ文学会々員
中野 玄治	日本美術会々員
三善清達	日本模型飛行機競技連盟
武藤山治	社会党栃木県連合会
柿原 黎子	な し
清水正夫	日本文化人会
松浦幸雄	日ソ親善協会
原 卓也	日本ペンクラブ
米川和夫	日ソ翻訳出版懇話会
大坪 昭	日ソ親善協会
上村光司	新潟日報社労働組合
大村迪也	日ソ親善協会
入沢毅一	三井美唄炭砒労働組合
玉生孝久	富山県青年議員連盟会長
林 重信	自由民主党長岡支部
大原 登志男	小樽地区労働組合議
山口武平	猿島郡青年団体連絡協議会(会長)
丸山 弘	和歌山県議会国際貿易促進議員連盟
水谷 力	三重県議会
松平 博	日本社会党布施支部
本庄 孝	泉大津市国際貿易促進議員連盟
上園辰己	自由民主党鹿兒島支部
山口義明	日本社会党札幌支部副支部長
清水忠栄	国鉄労組
山本 哲	国際貿易促進地方議員連盟
沓脱夕ケコ	日本共産党大阪府委員会
西川徳男	日本社会党東淀川支部
佐野 進	東京交通労働組合
宇田哲郎	広島県会議員
佐々木栄一	自由民主党大阪支部連合会

矢野道男	広島市議会新進クラス
山本辰雄	福岡県農村連盟
小西政一	日本交通公社調査役
西田 清	騰写印刷工
松本 茂	自由民主党練馬支部
古村 肇	三和興業従業員組合
寺崎利春	全日本金属労組
六本木 敏	国鉄労組盛岡地方本部
岡村良彦	石川県労働組合評議会
鴨川孝司	共同印刷労組
久保田昌夫	帝国地方行政学会社員
篠田憲明	菱源印刷工業労組執行委員
大門淑男	日本印刷学会
松田博子	全国金属労組タイカ計算機支部
野坂浩賢	日通氷子支店
今村真直	日本高教組
鈴木利夫	林野庁作業員
中畑光夫	国鉄高山機関区
岡田幸一郎	大阪国税職員労組
吉南喜一	北炭新幌内砒労組役員
樺山武三	鹿児島食糧事務所技官
臼田昌一	日本相互銀行職員組合
佐々木早苗	農林省事務官
最上緑平	建設省最上水糸砂防工事事務所員
多久栄一	全日自労
高橋節雄	秋田簡易裁判所
田主信生	大教組三島支部
中村敏弘	宮城県教組
瓜田正義	西津軽教組
高橋正澄	香川県教組三豊支部

○学 生

吉野秀俊	全学連
飯村隆彦	全日本学生新肉連盟
山森大七郎	全学新
小林秀嘉	石 同
片岡聡明	石 同
並木 謙	全寮協
安井美子	石 同

大田章雄 学生エスプレメント連盟
 岡本治房 日本農学々生ゼミナール
 山田 房 私学協
 辻 幹之 石 同
 岡田 清 全学連
 佐藤陽一 右 同
 若林 滋 全療協
 佐々木 慶明 右 同
 山田 忠 日本戦没学生記念会
 村田 栄一 全日本教育系大学々生協議会
 鈴木 大吉 わだつみ会
 石川 昇 関東夜学連
 大原将爾 全学連

○音 楽

菊地梯子 宮城会
 後藤 すみ子 同 右
 内田 るり子 現代音楽協会
 桜井 武雄 京都音楽短期大学
 土橋 明 宮城会
 北原 正邦 郁山流
 平井 澄子 能楽協会
 宮沢 智 舞踊月狂会
 滝沢 三重子 二期会
 鈴木 歳 全日本ギタ―連盟
 三木 理雄 同 右

○舞 踊 (日舞)

金子 乾子 日本舞踊協会
 大久保 八重子 同 右
 金子 良子 同 右
 幸岩 正泰 同 右
 加藤 まち子 同 右
 蘭 冬子 同 右
 高橋 志満 同 右

○舞 踊 (洋舞)

工藤 昇三 日本芸術舞踊協会
 江崎 司 同 右
 荻井 憲二 同 右
 鶴飼 三枝子 同 右

○演 劇

早川 昭二 劇団民芸
 小林 進 劇団俳優座
 加藤 治子 劇団文学座
 高橋 敏晴 劇団ぶどうの会
 島地 純 同 右
 東 恵美子 劇団青年座
 木村 鈴吉 劇団俳優座
 曾根 雄幸 劇団新協
 原田 甲子郎 劇団中芸

○フ ー ク

三橋 雄一 人形劇団フック
 古賀 伸一 同 右
 長谷川 正明 同 右
 木村 陽子 同 右
 川尻 泰司 同 右

○映 画

橋田 寿久年 新東宝
 高木 昇 同 右
 石川 義寛 同 右
 岩山 達彦 同 右
 福岡 隆 岩波映画製作所
 陣野 重嘉 松竹株式会社
 榛葉 豊明 教育映画作家協会
 富沢 幸男 同 右

○服 飾

川本 弘子 KID技術研究会
 石川 豊子 文化服装学院
 阿部 繁子 服飾美術研究所

那須 喜美子 色と型の研究会
渡辺 幸子 日本サイナー研究会
星田 喜久子 サロンドモード

○写真 眞

長野 重一 日本写真家協会
田沼 武能 同 右

○美術

尾藤 豊 日本美術会
池田 竜雄 同 右
河原 温 国際アートクラス日本本部
皆本 二三江 東京芸術大学
小島 広志 同 右

○合唱

渡辺 英一 中央合唱団
藤本 洋 日本うたごえ実行委員会
木下 航二 中央合唱団
木村 洋子 大分青年合唱団
小泉 勉 合唱なかま
壇上 佐和枝 中央合唱団
柴田 泰子 同 右
渡辺 昌子 同 右
藤波 陽子 湯河原ユネスコ協会
小坂 剛 長野合唱団
春日 高 東京国税労組
石渡 健司 神奈川合唱団
志村 和一 国鉄労組大井工場支部
田中 重晴 九州青年合唱団
高橋 剛 合唱団白樺
安田 晃 布施すみれコーラス
楠本 和彦 中央合唱団
佐松 隆三 大阪合唱団協議会
石川 徳一郎 水沢うたう会
斉藤 正臣 ともしびサークル
坂山 安子 合唱団白樺
堀 喜美代 中央合唱団
奈良 恒子 同 右
加藤 薫枝 名古屋青年合唱団
川原 信江 関西合唱団

安田 黎子 中央合唱団
根本 欣子 農林省農政局労組
下条 うた子 千葉うたう会
星野 秀 中央合唱団

○代表 団 争 務 局

角田 元通 日本青年文化協会
向庭 信昭 日本機関紙協会
和田 静子 国民文化会議争務局員
川村 秀 日ソ親善協会
大賀 忠直 農林省監員
坂口 信義 全学新
三浦 光雄 なし
土方 与平 青年文化協会
南 利通 日ソ親善協会

○医療 班

吉沢 秀雄 吉沢クリニク
門脇 フミ子 門脇医院

○露 語 通 訳

清水 邦生 ロシア文学日人訳
岡安 宏 新世界レコード株式会社
直野 敦 なし
近藤 敏雄 早大文学部在学
直川 誠蔵 東外大露西亜科在学
岡崎 照子 ナウカ株式会社
佐藤 恭子 東外大口シア科在学
木村 浩 日本ロシア文学会
山口 小枝 三交荘アパート会計係
久野 公 日本ロシア文学会
金光 不二夫 ほん訳業
城田 俊 東京外語大在学
鈴木 芳之 ロシア語教師
飯田 規和 ソビエト研究者協会
小沢 政雄 上智大口シア語助教

○仏語通訳

山本 香男里 東京大学大学院人文科学研究科在学
 根岸 隆夫 創団心どうの会
 谷口 侑 東京外国語大学仏語科学生
 加藤 功泰 早稲田大学露文科学学生
 西村 浩太郎 な し

○英語通訳

大島 一矩 東京外国語大学々生
 吉沢 炳俊 早大露文科(2部3年)
 小和田 一郎 桐花寮全寮委員会
 堀口 久生 教育大英文科
 塚本 勲 京都大学言語科
 安田 茂 東京外語大中国科
 安部 政雄 映画サークル東海地方協議会
 松石 勝彦 一ツ橋大経済学部学生
 大沢 実 AFS留学生会
 中川 文雄 南三鷹教会

渡航申請について

七日 実行委員会では、三名の代表委員、平沢吉田、吉野などで、外務省に行き正式に渡航申請を行った。それ以前に五日に四七五名分の名簿を提出、更に十日才二次の二五名の名簿を提出した。

連日、外務省、法務省、大蔵省、ソウイェト大使館などと交渉を続けているが、現在の問題点の一つとして外貨申請に対する許可が困難であるという条件がある。十二日、外務省では、渡航審議会を開いたが、最終的な結論は出ていない。ただ、五百名というのは多すぎるという理由のない見解を示している。又、公務員の場合、所属官公庁の許可をとっているかどうかという点などを問題にしているようである。

企画部から

実行委員会では、十一日企画部の打合せ会を開き、日本代表団のモスクワ祭典での入場式、閉会式、平和集会などにおける代表団の体制について検討、多彩なものにする予定。

又、おみやげ品については、各国代表との交歓の際に一番売られるバッジを代表団員一人百個あて、用意する。その他、日本の原水爆禁止運動の実状と原水爆被害の実相を伝えるパンフレットも用意中である。

八月六日には日本、カイニシアチウをとって、内容ある平和の向題に關する各国青年学生による集会を持つことをIPCに提案している。

渉外部から

写真、戸籍抄本など未提出の方は至急送って下さい。また写真に背景(室内の窓ワクワ、ヘイの線など)のあるものはハネられますから、心当りのある方は10枚分だけ至急送付のこと。

才四回全国実行委員会開かる

才四回全国実行委員会は、全国各地からの代表の参加によって凡そ百名により、衆議院議員会館で行われた。

代表の最終的な割当てが、決定され(一ページ参照)、今後の日程、補正予算をくむことが確認された他、いくつかの手続上の注意などが行われ、終った。

今後の日程

才四回全国実行委員会以後、配船の期日の変更があったので今後の日程は左記の如くなる。(なお、この日程は最終的には六月十四日の才五回全国実行委員会で確認される)

日程

六月十四日 才五回日本実行委員会
 記者 会見
 七月 五日 代表団東京結集
 結団式(十時より行なう、会場未定)
 十三日 代表団新潟着
 十五日 歓送会(新潟市)
 十六日 新潟港出港
 (アレクサンドル、モジマイスキー号)
 十八日 ナホトカ着
 (これは配船の都合によって変更されるものです。)

友好祭ニュースの様より

○事務局長名簿作成のためニュースの発行をおくれたこととお詫びします。

○今後はひんぱんにニュースを発行する予定です。地方の動きを事務局宛お送り下さい。

○六月十四日の全国実行委員会の際に代表団員へのアンケートを配布します。

○モスクワ祭典中の諸集会については、アンケートを参照して下さい。